

◆応援も白熱◆ インカレ前、幡谷選手は団体戦の注目ポイントとしてチーム全体の盛り上がり左に挙げていたが、その言葉通り明るく、体感のある応援は、会場から笑いがこぼれるほど、チーム全体の雰囲気が見え、団体戦でし

「気持ちで負けず」打ち抜いた

中大スポーツ
CHUDAI SPORTS

11月21日 火曜日
令和5年(2023)

第179号

らーめん
にんにくや

Instagram: ninnikuyaseki
twitter: ninnikuya_h

応援してるぞ~!!

◆第77回文部
科学大臣杯全日本大学対抗
ソフトテニス選手権大会・第5回全
日本学生ソフトテニスシングルス選手権
大会(9・26 石川・和倉温泉運動公園
テニスコート) 団体・ダブルス・シングルス
の3部門が行われるイ
ンカレにて、中大団体
とシングルスで準優勝
を獲得した。団体戦は昨年の3位を塗り替え、
2004年に優勝して以来の快挙を成し遂げ
た。エース幡谷康平(法3)は団体戦に
続き、今季好調のシングルスでも準
優勝を飾る活躍を見せた。

◆決勝出場選手戦績◆

4年 西田駿人 7試合 6勝1敗

3年 濱田祐 6試合 4勝2敗

3年 高田翼 6試合 4勝2敗

3年 両角友志 7試合 5勝2敗

2年 武市大輝 7試合 5勝2敗

全員でつかみ取った準V

春季リーグ戦は5連敗で最下位となり、「悔しさを晴らしたい」と逆襲を誓った全国の舞台。迎えた準決勝は法大との対戦となった。3回戦以降から変わらず、幡谷・西田駿人(経4)組、濱田祐(経3)・高田翼(経3)組、武市大輝(法2)・両角友志(経3)組で臨んだ。初めの2試合に勝利し王手をかけたが、3試合目を落とし、二次戦となる4試合目はゲームカウント0-3からの逆転負け。それでもエース幡谷・西田組が意地を見せ、3-2で勝利し決勝に駒を進めた。

春季リーグ戦覇者の明大と対戦した決勝は0-3で敗戦し、準優勝に終わった。全国2位という快挙にもかかわらず、決勝後選手たちが見せたのは笑顔ではない。決勝までたどり着いた喜びより、日本一にあと一步届かなかった悔しさを各々がにじませた。「体力的な部分とあと1本を取り切る力が必要」と大門俊彦監督は決勝後総括した。

応援するぞ！
中大!!

株式会社TBC

ITを身に着け今日を交え未来社会を拓け!!

日本橋でITひとすじ 創業40年

金融保険業FinTech 認可第一号企業

社長 2022年新人社員 中大OBです

HP: <http://www.tbc-inc.co.jp>

決勝で力強いレシーブを返せる幡谷(カメラ、写真由佳梨) 切り込み写真は団体戦決勝進出を決める選手たち



W 準優勝



中スポ 櫻井山本B9
〈最終面〉伊勢路4位
〈2面〉

ものにした激戦
「焦らず自分から」接戦制し決勝へ

「焦らず自分から」接戦制し決勝へ

ラーメン二郎
八王子野猿街道店2

アルバイト募集

新入生 大歓迎

ラーメン 食べ放題

部活会員 募集

詳しくはDMで↓
@Jiro_Yaenkaido2

～東京都羽村市にあるアットホームな脱毛サロン～



学生限定！！
両脇2000円～



お気軽にお問い合わせください！→